

Cutting-edge Bio-seminar 12

日本の「美味しい食材」を適正に保護する： DNAによる品種識別法活用と知財対応

本シリーズは多様性を重視し、国内バイオ企業の研究者、リーダー、海外勤務や外資系企業研究者、スタートアップ創業者、エンジェル、公的機関で勤務される方々など、世界に羽ばたくedgeの効いた研究開発の推進とその産業実装に従事している方々をお招きし、登壇者と聴講者が互いに学び励まし合いながら、バイオ産業の発展に寄与することを目指す。今回は、日本の美味しい食材（野菜、果物など）の海外流出の課題解決に貢献する品種識別技術の開発の現状と展望に加え、知財の観点から育種の時点から国内で保護の重要性について語って頂く。クロストークではカンキツの育種基盤研究者をディスカッサーとして迎え、討論を行う。育種、知財ご担当者、必見セミナー。

開催日時：2025年6月27日（金） 15：00～16：20

セミナー形式：Zoom（定員500名）

主催：（一財）バイオインダストリー協会

協賛：日本生物工学会（予定）

Coordinator： 新城 雅子氏（奈良先端科学技術大学院大学 客員教授）

15:00～15:05 はじめに

15:05～15:30 食の安心・安全に貢献する作物の品種識別技術の開発
門田 有希氏 岡山大学 学術研究院 ゲノム遺伝解析学研究室

作物の品種育成には多大な労力と膨大な時間が必要であり、育成された優良品種は我が国が誇るべき貴重な財産である。しかしながら、これら優良品種が海外へ不当に流出し、無断栽培される事態が発生しており、社会的な問題となっている。このような権利侵害を立証し、育成者権を保護するためには作物品種を正確かつ迅速に識別できるDNA検査技術の開発が不可欠である。演者らは、さまざまな作物種を対象にDNAマーカーを利用した品種識別技術を開発してきた。そこで本講演では、演者らが開発してきた技術について、最近の研究成果も交えて紹介する。

15:30～15:55 アジアにおける模倣品の現状と農産品の輸出における留意点
柴田 富士子氏 弁理士法人 綾船国際特許事務所

日頃、何気なく口にしている国産の野菜や果物の味は海外では高く評価されており、「日本産」は、安心、安全で美味しい食品を示す1つのブランドとなっている。一方、日本産でない果物の包装に「日本」「北海道」等の日本の地名を表示する、日本産でないコメの包装に「真珠米」と漢字で表示する等、想像を超えるような産地偽装が海外で行われている。産地偽装は「日本産」という信用へのただ乗りとして行われているが、粗製乱造によって味が落ち、評価が下がるという負のスパイラルも起きている。

海外で何が起きているかを紹介し、知財を有効に利用して対処する手段を紹介したい。

15:55～16:20 クロストーク

Coordinator： 新城 雅子氏

Discusser： 遠藤 朋子氏 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門

参加費無料、公開

Zoom参加： JBAホームページよりお申し込みください。

締切： 2025年 6月25日（水）

お問合せ： （一財）バイオインダストリー協会（担当：矢田、中戸川、北嶋）

講師

門田 有希氏

岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域

ゲノム遺伝解析学研究室 教授

京都大学農学部卒業後、同大学院農学研究科修士課程・博士課程に進学し、イネの遺伝育種学的な研究やDNAマーカーの開発に従事。博士課程時には、特別研究員として2年間米国に滞在（ジョージア大学とカリフォルニア大学リバーサイド校）。博士取得後は岡山大学にて、サツマイモやカンキツ、リンゴ、イチゴ、ブドウなど様々な作物種を対象に品種識別技術の開発に従事。2023年からは日本学術会議連携会員および若手アカデミー構成員も務める。DNA多型学会の理事、代議員や日本育種学会の代議員等も務めている。2022年にはDNA品種識別技術の妥当性確認のためのガイドライン検討会委員も務めた。

柴田 富士子氏

弁理士法人 綾船国際特許事務所

弁理士

埼玉大学理工学部環境化学工学科卒業後、日本ロシュ研究所で有用微生物の探索、インターフェロン抗体のアッセイ系の確立、抗がん剤の体内動態の研究等に従事。弁理士試験に合格後、2016年に日本弁理士会執行理事、2019年に日本弁理士会副会長（バイオリフサイエンス委員会、農林水産知財対応委員会、及び国際活動センター担当）、2024年度農林水産知財対応委員会委員長を務める。2024年より、国際知的財産保護協会(AIPPI)のPlant variety committeeメンバー。現在、国内外の再生医療、環境技術等の案件を扱っている。

ディスカッサー

遠藤 朋子氏

農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門

果樹品種育成研究領域 果樹茶育種基盤グループ グループ長

東京理科大学基礎工学部卒業、同大学院基礎工学研究科修士課程修了後、農林水産省果樹試験場に入省。半年間の研修後、同興津支場（現静岡市）に着任以降20年余り、カンキツの遺伝子・ゲノム研究から育種・栽培を支える研究に従事（2006年博士（農学）取得）。2019年から2年間農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発官（基礎・基盤、環境）室で、研究専門官として研究行政に従事。現在は、果樹茶のゲノム解析やDNA品種識別技術の開発等を担当する。